

野菜作って、動物飼って、自炊しながら「通学合宿」【福岡県】

福岡県庄内町には町立の「生活体験学校」という子どものための合宿施設があります。平成元年から本格的に「通学合宿」というプログラムを年間20回実施しています。参加対象は町内唯一の小学校である庄内小学校の3年生から5年生までの希望者です。1回は10名の班に編制されます。日曜日から土曜日までの1週間、自炊をしながら通学するという合宿です。名付けて「通学合宿」と言います。

この施設には子どもの食事を作ってくれる大人は一人もいません。食事を自分で作るのはいうまでもなく、風呂も薪で子どもが沸かします。洗濯も、掃除も、布団の上げ下ろしも自分でします。それだけではなく、生活体験学校では、馬、犬、猫、ニワトリ、ウサギ、アイガモ、小鳥を飼っています。馬や犬の糞を毎日片づけることやすべての動物の餌をやること、ニワトリの卵をとって食べることも朝晩の子どもの仕事です。また、毎日出る生ゴミや馬糞、畑の雑草も加えて「堆肥」を作ります。生活体験学校開設このかた、生ゴミを外部に出さないで堆肥を作り続けています。時には、1カ所だけ汲み取り式にしてある便所から「コエ汲み」をして、人糞を堆肥にかける作業もします。人糞を堆肥にかけることで堆肥の発酵を促進するのです。さらに、完熟した堆肥を畑に入れて野菜作りをします。子どもが1週間に食べる野菜の7,8割を生産しています。秋には、毎年約2,000粒のドングリを播いて育苗をします。2年かけて育てたドングリ苗を工場団地の法面に定植して「ドングリの森づくり」を進めています。



福岡県庄内町立「生活体験学校」

庄内小学校を卒業するまでには、約6割の児童が通学合宿を体験します。3年生は3泊4日、5・6年生は6泊7日の日程です。この通学合宿では、下表の体験プログラムを通して子どもどうし、子どもと大人の間の人間関係を深め、広めます。長い日程ですから子どもどうしの協力なしには生活できません。「協力する」ということは、自分がどう行動することであるかを日々の生活場面ごとに体験します。協力だけではなく、時として「対立」や「反目」が生じることもあります。生活体験学校では、学校の下校時刻のようなものではありませんから、じっくりと時間をかけた話し合いが行われます。学校生活と連動しているような人間関係の「もつれ」がある場合には、学校の先生方との連絡を取ることもあります。夕食作り等の場面では保護者が交代でアドバイスに務めます。その場合も大人が「代わりに作ってしまう」ことはタブーになっています。水加減を間違えて10人分の「おかゆ」を作ってしまった失敗もありました。人間関係でも生活体験でも、「失敗の勧め」が通学合宿のモットーです。宿泊するボランティアだけでも約40名のボランティアが登録されています。そのほとんどが子どもたちの生活圏域内の大人です。優しい大人もいれば、子どもがこれまで出会ったこともないような厳しい大人もいます。様々な人間との「出会い」を体験します。参加した子どもたちに共通した感想は、「苦しいこともあったけど、楽しかった。また、来たい。」です。

日 程		
第1日(日曜日)	通常の日(月～金曜日)	最後の日(土曜日、3年生は水曜日)
10:00 集合 保護者説明会	6:00 起床 グループ作業	6:00 起床 グループ作業
12:00 昼食(自作の弁当)	朝食	朝食
13:00 親子の体験活動	7:45 登校(徒歩)	7:45 登校(徒歩)
17:00 グループ作業	17:00 グループ作業	12:30 昼食
18:00 夕食	18:00 夕食	14:00 体験活動
19:00 入浴,洗濯,学習	19:00 入浴,洗濯,学習	15:00 作文,親子で清掃
21:30 就寝	21:00 就寝	17:00 解散 (3年生の解散時間は平日(水)の18:00)

平成10年4月には大人の生活体験学校「生活文化交流センター」が同じ敷地内に設置されました。老人クラブが100kgの梅漬けを作ったり，大豆を生産している農家が大豆を持ち寄って豆腐作りと販売を始めました。「ものづくり」はものだけでなく「人間関係」も創り出します。大人のものづくりに子どもも加えてもらう場面が見られるようになった生活体験学校です。



うまく道具を使えるかな？



堆肥作りも重要な仕事です。



豆腐はこうやってできるんだ！



ニワトリ，ウサギもお友だち